

各位

高知県病害虫防除所長

施設ニラにおける薬剤感受性の低いネギアザミウマ個体群の発生について

令和4年6月、香南市の施設栽培ニラほ場（ほ場A）のネギアザミウマに対してファインセーブフロアブル（フロメトキン水和剤）を散布したところ、ネギアザミウマの寄生虫数、被害葉率の低下は認められず、本剤に対する感受性の低下が疑われました（表1）。そこで、薬剤感受性検定を実施した結果、ファインセーブフロアブルに対する薬剤感受性が非常に低いことが明らかになりました（表2）。

さらに県内4か所のニラほ場で採集したネギアザミウマについて感受性検定を実施したところ、香南市（ほ場B）および黒潮町（ほ場C）においても同様にファインセーブフロアブルに対する感受性が低い個体群が確認されました。香美市（ほ場D）、香南市（ほ場E）では感受性が高かったものの、今後、感受性の低い個体群の増加が懸念されます（表2）。

現在、県内の施設ニラ産地では概ね定植が終了していますが、秋期以降の発生を抑制し、感受性の低い個体群のまん延を防ぐため、下記の防除対策について指導をお願いします。

記

「対策」

- 1) 施設開口部への防虫ネットの展張、光反射資材の利用により、ネギアザミウマのほ場への侵入を抑制する。
- 2) ほ場内およびほ場周辺の雑草は増殖源となるので除草を行う。
- 3) 異なる系統の化学合成殺虫剤や気門封鎖剤、微生物農薬によるローテーション散布を実施し、ネギアザミウマの密度低下に努める。
- 4) 薬剤散布にあたっては、収穫直前頃になるとニラが繁茂して散布ムラができやすく、虫体に薬液がかかりにくくなるので注意する。
- 5) ニラ以外の寄主植物（ネギ類、トルコギキョウ等）においても、感受性の低い個体群の発生に注意する。

「注意」

薬剤防除にあたっては、県の「病害虫防除指針」を参照し、農薬使用基準の遵守及び周辺農作物等への飛散防止対策を徹底する。

県病害虫防除指針（高知県農薬情報システムに掲載）

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/kochi>

表1 ほ場Aにおけるファインセーブフロアブル散布後のネギアザミウマ寄生数および被害葉率の推移

	散布1日前	散布2日後	散布7日後	散布14日後
寄生虫数	57	86	78	82
（うち成虫数）	(22)	(21)	(19)	(12)
（うち幼虫数）	(35)	(65)	(59)	(70)
被害葉率(%)	98.0	97.3	98.0	100.0

注) 栽培終盤の6月1日に、ファインセーブフロアブル2000倍希釈液を10aあたり200Lの割合で散布した。調査は50株・150葉(1株当たり新葉3枚)について、目視により寄生虫数および食害の有無を確認した。

表2 ネギアザミウマ1、2齢幼虫に対する殺虫剤の効果(補正死虫率)

IRAC	農薬名	希釈倍率	供試個体群				
			香南市 (ほ場A)	香南市 (ほ場B)	黒潮町 (ほ場C)	香美市 (ほ場D)	香南市 (ほ場E)
4A	ダントツ水溶剤	2,000倍	—	0	—	2.4	5.7
5	ディアナSC	2,500倍	—	11.4	—	0	0
9B	コルト顆粒水和剤	2,000倍	—	0	—	0	2.6
14	リーフガード顆粒水和剤	1,500倍	—	4.3	—	8.6	10.5
21A	ハチハチ乳剤	1,000倍	—	10.9	5.0	36.8	66.7
34	ファインセーブフロアブル	2,000倍	0	0	0	87.5	100
	対照(イオン交換水)		2.0	0	0	0	0

注) 数値は処理1日後または2日後の補正死虫率を示し、対照は死虫率を示す。

補正死虫率 = (対照生存虫率 - 処理生存虫率) / 対照生存虫率 × 100

採集日: ほ場A; 2022年6月15日、ほ場B; 7月4日、ほ場C; 7月7日、ほ場D、E; 7月13日

ほ場A~Cは採集日当日に、ほ場D、Eは7月14日に、1処理あたり1、2齢幼虫概ね15頭、各2、3反復供試し、いずれもクミテンを5,000倍加用して処理した。処理後は25℃、16L-8D条件下で飼育した。

—は未実施を示す。

お問合せは、病害虫防除所(TEL: 088-863-1132)または
環境農業推進課(病害虫専門技術員 西 TEL: 088-821-4545)まで

野菜類一 野菜類一殺菌剤

野菜類一 野菜類一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日: 2022/03/09

☐ページの末尾へ

農薬の名称	毒性	有効成分の名称	使用基準						病害出雑草名 軟腐病	
			使用方法	高知県希釈倍率	使用時期	高知県使用回数	使用目的	RAコード		
1 ICボルドー66D	普	塩基性硫酸銅	散布	100倍	-	-	-	-	M01	○
2 クワロシールド	普	塩基性硫酸銅	散布	1000~1500倍	-	-	-	-	M01	○
3 コサイド3000	普	水酸化第二銅	散布	2000倍	-	-	-	-	M01	○
4 コサイドボルドー	普	水酸化第二銅	散布	1000倍	-	-	-	-	M01	○

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/nouyak/output/showlist/kochi?sn=6BFE7D4E>

A 野菜

○ 野菜類

【病害】

1. 苗立枯病 (*Rhizoctonia solani*)

(1) 薬剤防除

<https://www.nouvaku-svs.com/novaku/user/novakuoutput/showlist/kochi?sn=6A180E1B>

2. 灰色かび病

(1) 薬剤防除

<https://www.nouvaku-svs.com/novaku/user/novakuoutput/showlist/kochi?sn=86C09A76>

- 1) クリーンカップは、ハクサイ、キャベツ、ダイコンに使用する場合は、薬害軽減のために炭酸カルシウム水和剤を加用する。

3. うどんこ病

(1) 薬剤防除

<https://www.nouvaku-svs.com/novaku/user/novakuoutput/showlist/kochi?sn=4029C75B>

- 1) フーモンはQoI剤 (FRACコード11) との混用および近接散布は、薬害の恐れがあるので避ける。また、作物の幼苗期や軟弱徒長苗、高温時など一般に薬害が生じやすい条件では、本剤の使用を避ける。
- 2) クリーンカップは、ハクサイ、キャベツ、ダイコンに使用する場合は、薬害軽減のために炭酸カルシウム水和剤を加用する。
- 3) ジーフアイン水和剤は、幼苗期や高温時の散布は薬害の恐れがあるので避ける。また、眼に刺激性があるので注意する。
- 4) ボタニガードESの使用は、低温期を避け、18～28℃の温度期とし、散布後15～24時間は80%以上の湿度を保つことが望ましい。このため、午後遅くか夕方に散布し、夜間は施設を締め切る。7日間程度の間隔で2回以上散布することが望ましい。また、ミツバチに対して影響があるので直接虫体や巣箱にかからないように注意する。なお、眼と皮膚に刺激性があるので注意する。

4. 菌核病 (*Sclerotinia sclerotiorum*)

(1) 薬剤防除

<https://www.nouvaku-svs.com/novaku/user/novakuoutput/showlist/kochi?sn=A36856D1>

- 1) ミニタンWGは、冷蔵 (4℃) で保存する。夏期高温時の使用は避ける。

5. ベと病

(1) 薬剤防除

<https://www.nouvaku-svs.com/novaku/user/novakuoutput/showlist/kochi?sn=C010132C>

6. さび病

(1) 薬剤防除

<https://www.nouvaku-sys.com/novaku/user/novakuoutput/showlist/kochi?sn=DCB7CF87>

7. 白さび病

(1) 薬剤防除

<https://www.nouvaku-sys.com/novaku/user/novakuoutput/showlist/kochi?sn=F95F8BE2>

- 1) ジーファイン水和剤は、幼苗期や高温時の散布は薬害の恐れがあるので避ける。また、眼に刺激性があるので注意する。

8. 褐斑細菌病

(1) 薬剤防除

<https://www.nouvaku-sys.com/novaku/user/novakuoutput/showlist/kochi?sn=1607483D>

9. 斑点細菌病

(1) 薬剤防除

<https://www.nouvaku-sys.com/novaku/user/novakuoutput/showlist/kochi?sn=32AF0498>

10. 黒腐病

(1) 薬剤防除

<https://www.nouvaku-sys.com/novaku/user/novakuoutput/showlist/kochi?sn=4F56C0F3>

11. 軟腐病

(1) 薬剤防除

<https://www.nouvaku-sys.com/novaku/user/novakuoutput/showlist/kochi?sn=6BFE7D4E>

- 1) ICボルドー66Dを初めて使用する作物においては、事前に薬害や作物への汚れの有無を十分確認してから使用する。
- 2) ジーファイン水和剤は、幼苗期や高温時の散布は薬害の恐れがあるので避ける。また、眼に刺激性があるので注意する。